寺社を巡る会

活　動　記　録　書

開 催 日： 平成２８年１２月１日（木）　雨のち晴れ	開催テーマ： 二階堂方面を歩く
開催場所： 二階堂地区	記 入 者： 横山 美智男

参加人数：寺社を巡る会会員　男　２９名　女　３名　計　３２名
ビジター　男　０名　女　０名　計　０名
合　計　３２名

実施内容（実施の項目、方法、効果・成果、宿題　など）：

コース：岐れ道バス停～覚園寺～鎌倉宮（権禰宜による案内）（昼食）～永福寺跡～瑞泉寺～護良親王墓～鎌倉宮（解散）

雨が少し残るなかバス停「岐れ道」に集合、近くの駐車スペースで挨拶をした後、最初の訪問地、覚園寺に向かう。覚園寺では作務衣に身を包んだ案内人に迎えられ、丁寧なご説明をいただいた。北条義時が建立した大倉薬師堂が前身、後に九代執権・北条貞時が本格的な大寺を発願し嘉元四年(1306)に完成した。心慧を迎えて開山とし、覚園寺と命名、四宗兼学(蜜、律、念、禅)の学問所となった。

入口正面には愛染堂が建つ。明治初年に廃寺となった大楽寺に所属していた堂。木造愛染明王のほか、珍しい鉄造の不動明王坐像などが安置されている。

境内を奥に入ると薬師堂がある。堂内正面には本尊の木造薬師如来坐像、両脇には日光・月光菩薩像が安置され、両側面には十二神将が睨みをきかしていた。いずれも想像以上に大きく迫力を感じた。虹梁には文和三年(1354)に修理した折に足利尊氏が書いたという文字が残されている。建屋にも仏像にも歴史の重みを感じる空間であった。地蔵堂には地獄で火攻めに苦しんでいる人々の身代わりになり、全身が黒くすすけた黒地蔵が安置されていた。何度彩色をしてもすぐに元の黒さに戻ってしまうと言い伝えられている。江戸時代の庄屋であった旧内海家住宅では、閻魔王を初めとする冥途の裁判官に係る十三仏信仰の話を伺う。十三仏やぐらでは小さなロウソクに灯りを点して極楽浄土に行けるよう願った。撮影禁止の場所が多かったのは残念だったが、しっかりと脳裏に焼き付けた。

次は鎌倉宮へ、祭神は大塔宮護良親王。権禰宜の案内により境内を巡った。親王は建武の新政を担ったが足利尊氏と対立し、東光寺の土牢に幽閉され後に殺害された。明治天皇の意思により東光寺跡に創建されたのが鎌倉宮である。土牢は今も残る。宝物殿には護良親王のゆかりの品など多数陳列されていた。

昼食後は永福寺跡へ、永福寺は鶴岡八幡宮寺、勝長寿院と共に源頼朝が創建した三大寺院の一つである。伽藍は平泉中尊寺の二階大堂をまねた本堂と阿弥陀堂、薬師堂の三堂が中心で、大池のある荘厳な寺院であったといわれている。この辺りが二階堂と呼ばれる所以である。応永十二年(1405)火災により焼失、室町時代末期には廃絶した。近年の発掘調査では本堂の二階堂の建物跡とみられる遺構が出土し、柱の直径が60㎝もあった大寺院であったことが分かった。現在は史跡公園として整備工事が進められている。

続いて瑞泉寺へ、創建は嘉暦二年(1327)鎌倉公方の菩提寺として、関東十刹の第一位に列せられていた寺院である。入口から長い階段が続き、ようやく山門に着く。本堂の外から本尊釈迦如来像、千手観音像(徳川光圀寄進)、夢窓疎石像を拝観した。境内にはどこも苦地蔵、吉田松陰留跡碑、むじな塚伝説の碑などが見られる。光圀御手植えとされる冬桜は数輪の可憐な花をつけていた。

最後は護良親王の墓、多くは急な階段の下から眺め、上ったのは数人であった。鎌倉宮まで移動して終わりの挨拶を交わし帰途についた。

参加者の状況・意見など：

覚園寺、鎌倉宮では丁寧な説明に感謝、配慮いただいた鎌倉ガイド協会にも感謝したい。覚園寺を初め素晴らしい紅葉でタイムリーな企画であった。

次回の予定：

１月13日（金）　１０：００　北鎌倉駅東口(浄智寺側)　七福神(浄智寺、旗上弁財天など)